

# グループホームさかい(認知症対応型共同生活介護事業所)

## 1. 評価結果概要表

作成日 20 年 12 月 16 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	1871700397
法人名	社会福祉法人 坂井来春会
事業所名	グループホームさかい
所在地	福井県坂井市坂井町折戸1-58 (電話) 0776-72-7373

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年12月16日

【情報提供票より】 ( 20 年 10 月 3 日 事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 10 月 25 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人、非常勤 0 人、常勤換算 14 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4)利用者の概要 ( 10 月 3 日 現在)

利用者数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	7	要介護2	6
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	1
年齢	平均 84.8 歳	最低 73 歳	最高 94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	春江病院、大野歯科医院
---------	-------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、県下随一の米どころである坂井平野の中にあり、周囲を田んぼに囲まれている。民家のある集落からは少し離れているため、地域との交流という点では立地的に不利な環境にあるが、介護老人保健施設を母体に、法人内の他の事業所の機能や設備を活用することで入居者の生活範囲に広がりを持たせ、刺激とメリハリのある生活を支援する体制が整備されている。  
また、これまでの外部評価結果を踏まえた改善を図りながら、地域に開かれたグループホームを目指す積極的な取り組みが一貫して推進されている。  
グループホームが地域密着型サービスに位置づけられ、運営推進会議の設置義務化等の制度改正への対応の中で、効果的な活用を図り、ホーム内での生活に留まることなく、立地の不利を克服し、外出、行事、地区自警団との防災協定等を通じた地域住民との交流が進められており、入居者の社会的な生活の充実に取り組んでいる様子が見える。今後も、法人内の多機能性を活かした安心・安全の仕組みを維持・向上させながら、さらに地域の一員としてのホームの立場を周知・定着させるような独自の取り組みが期待される。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 法人内の異動で管理者が交代したが、前回評価の取り組みについて前任者から引継ぎを受けており、改善に向けて真摯に取り組んでいる。具体的には、理念の見直しや運営推進会議の運営、地域交流の促進等の積極的な取り組みがみられる。今後は、外部評価結果をホーム内で誰でも閲覧できるように公表し、家族や地域関係者に取り組みを公開することで安心と信頼につなげていくことをさらに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を踏まえて、ホームの運営や業務の改善に努めてきており、今回の自己評価に当たってもその成果を全員で確認しながら、意見を出し合って作成しており、サービスの質の向上につながっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議を3か月に1度の頻度で開催しており、今年度からは構成メンバーも新たに2名増やし、より幅広い立場からの意見を取り入れようとする姿勢がみられる。意見交換も活発になされており、特に地域との関わりにおいて、広報紙の地域への配布や保育園との交流等の提案を受けている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 面会時に主に管理者と意見交換をしたり、運営推進会議にも家族代表が出席して意見を表明する機会が持たれている。家族への対応については、管理者に窓口が一括化されており、情報や連絡の行き違いがないような体制となっているが、職員レベルでも家族の気持ちに傾聴したり、担当者としてのケアの思いを家族と共有することで、家族との良好な関係づくりや職員の成長にもつながるため、さらなる取り組みを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流という点では立地的に不利な環境にあるが、母体施設を中心に、法人内の他の事業所の機能や設備を活用することで入居者の生活範囲に広がりを持たせ、刺激とメリハリのある生活を支援する体制が整備されている。母体施設で行われる地域との交流に参加させてもらったり、グループホーム自体でも運営推進会議をきっかけとして地域との交流が積極的に進められている。

## 2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営 1 理念の共有</b>			
	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価結果を踏まえ、基本理念の再検討がなされている。従来の理念に、新たに地域住民との交流を盛り込んだ内容となっており、見やすい所に掲げられている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々の業務の中で職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員全員で勤務前に理念を唱和することで意思統一を図っている。職員は、自らの介護に携わる目標としての考えをしっかりと持ちながら、理念の実現のために取り組んでいることがヒヤリングから確認できた。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
■	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体施設で行われる地域との交流に参加させてもらったり、グループホーム自体でも運営推進会議をきっかけとして地域との交流が積極的に進められている。		
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
■	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人内の異動で管理者が交代したが、前回評価の取り組みについて前任者から引継ぎを受けており、今回の自己評価も職員全員で意見を出し合って作成している。		今後は、外部評価結果をホーム内で誰でも閲覧できるように公表し、家族や地域関係者に取り組みを公開することで安心と信頼につなげていくことをさらに期待したい。
■	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3か月に1度の頻度で開催しており、今年度からは構成メンバーも新たに2名増やし、より幅広い立場からの意見を取り入れようとする姿勢がみられる。意見交換も活発になされており、特に地域との関わりについて提案等を受けている。		
■	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との連携については、常に課題を提起して共に検討がなされている。広域連合の担当者が運営推進会議にも出席しており、市内のグループホーム間の交流や介護分野の人材不足への対応等について働きかけがなされている。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
■	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりを伝える方法として、ホームの広報紙を季節ごとに発行して、家族に送付するほか、個々の状態変化等については、その都度連絡している。また、利用料の支払い等なるべく多くホームに足を運んでもらえるように工夫している。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に主に管理者と意見交換をしたり、運営推進会議にも家族代表が出席して意見を表明する機会が持たれている。家族への対応については、管理者に窓口が一本化されており、情報や連絡の行き違いがないような体制となっている。		家族への対応は全面的に管理者が行っているが、職員レベルでも家族の気持ちに傾聴したり、担当者としてのケアの思いを家族と共有することで、家族との良好な関係づくりや職員の成長にもつながるため、さらなる取り組みを期待したい。
■	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の組織的な事情により管理者の交代があったが、十分な引継ぎがなされている。従来から職員の異動は必要最小限に留めるように配慮されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の他、法人内で毎月感染症等のテーマで研修を実施しており、職員も多く参加して、スキルアップを図っている。日々管理者と一般職員とがコミュニケーションを図り、その中での人材育成を重視している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等の機会を利用して、同業者との情報交換を図っている。運営推進会議でも市内のグループホーム間の交流が議題にあがっており、広域連合に働きかけている。		市内のグループホーム間の交流が実現すると共に、入居者と職員が共に参加して日常的な相互訪問等様々な形で交流や情報交換がなされることを期待したい。
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーを通じて入居の相談がある場合には、本人と家族に見学や体験に来てもらうことを基本としている。階下のデイサービスの利用者がグループホームに入居する場合にも、声かけや説明で本人が違和感なく安心して過ごしてもらえるような配慮がなされている。		
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干しづくりのコツやその他の生活の知恵等を学びながら、職員は入居者を人生の先輩として敬う気持ちを大切にしている。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握</b>			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや入居者が自主的に取り組もうとすることから本人の思いや意向の把握に努めている。大人しい人や控えめな人には職員が意識的に関わって、本人の思いや意向について気づきを得るようにしている。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者と居室担当者が連携し、家族の意見や要望を考慮して介護計画を作成している。日々の支援については職員全体で共有理解して、情報交換をしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の頻度で、月々のモニタリングに基づいた介護計画の見直しを行っている。定期的な見直しまでの間に変化が生じた場合には、速やかに計画の変更がなされている。		
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設の医師、看護師による緊急時の対応で連携が取られていたり、デイサービスの大きな風呂を利用するなど併設の事業所の機能も柔軟に活用しながら入居者のよりよい生活を支援するために取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診も継続しているが、ホームの職員が同行するのは協力病院への通院のみで、かかりつけ医や家族が希望する医療機関への通院は基本的に家族に付き添いを依頼する方針となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、母体施設への入所や病院への入院を想定しており、ホームでの介護方針は持っていない。介護状態に応じて家族への説明と協議をしながら対応している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄支援もさりげない声かけで誘導しており、プライバシーへの十分な配慮がうかがえた。記録等についても、事務所で適切に保管され、記入時に利用者の目に触れないようにするなど慎重に扱われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の心を傷つけない様に、一人ひとりを受け入れながら、良い所を見て、優しく接することを支援の柱としている。職員からの問いかけを多くして、入居者の気持ちを引き出しながら、一人ひとりのリズムある生活を支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者には特に役割を固定することなく、したい人が自主的に職員と一緒に準備から後片付け等を行っており、食材の買出しにも一緒に出かけている。職員も同じ食事を入居者と共に食べており、味や食べやすさ等共通の話題でコミュニケーションが図られている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回、午後の時間帯を基本にして入浴ができるが、仲のいい人と一緒に入りたいとか、拒む場合は無理に勧めることなく状況によっては翌日としたりするなど本人の意向に沿った支援がなされている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯、掃除等の家事について家族からの情報や日々の生活から一人ひとりの様子を見て、自主的に、また、負担のかからないように働きかけながら役割を担ってもらい、メリハリのある暮らしを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や野菜づくりでの外出が中心であり、季節のドライブや催し物、買い物や外食等を適宜盛り込みながら変化のある生活に配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在は入居して間もない方が落ち着かないこともあって、内玄関の自由な開放は制限されている。しかし、ユニット間の行き来や散歩等の機会を多くしながら情緒の安定が図れるよう配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春と秋の年2回消防署の指導の下で避難訓練を実施している。地元地区の自警団との協力関係を結んでおり、地震時の対応マニュアルも新たに作成している。		いざという時に職員にはどんな行動が求められるか、訓練だけに留まらず、日頃からイメージトレーニングを積むなど意識を高めることで、より不安のない対応につながる事が期待される。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士がバランスの良い食事となるように献立をチェックしている。摂取量の記録をとりながら、栄養・水分確保のための支援がなされている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るい居間を中心に、畳の間や落ち着いた色調の家具類等で居心地のよい空間となっている。共同作品や行事等の写真を掲示して生活感や季節感を出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと筆筒はホーム側で準備しているが、入居者個々で布団類や椅子等を持ち込んでいる。掲示物等馴染みの物を置いて、個性的な空間となっている。		

グループホームさかい(2ユニット共通)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>				
<b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で親切、思いやり、和やかさを実践している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎日ホーム内を巡回し利用者及び職員とのコミュニケーションを大切にしている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	文書を提示して説明する ホーム内にも数ヶ所目に触れるところに提示している		
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地区の行事にはできる限り参加し地域との交流を図っている		地区の運動会や敬老会にも参加させていただいている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の体育大会の行事に参加又坂井市主催の敬老会などの行事に積極的に参加し地元の方々や利用者、職員の交流を図っている。		・イチゴ狩り、餅つき大会など地元の人々と交流を深めて継続したい ・公民館、駐在所等の公共施設に広報誌の掲示の依頼をしたい
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元の方々にも参加を呼びかけ介護教室を開催している		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえて施設の運営や業務の改善を図るよう努めている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、公民館長、地域住民代表、家族を委員としてホームの運営に係る説明と意見交換を行いホームの運営に反映している、3ヶ月に一度開催している		日常的な住民との交流が少ないため運営推進会議にて様々な情報交換で地域行事などに積極的に参加したい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の行事や活動に参加するとともに、施設行事の理解を深めて頂くために納涼祭などの行事に行政の参加を頂くなど連絡を密にしている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の虐待が起きないように職員、管理者は細心の注意を払い尊厳を守るように努めている		
<b>4 理念を実践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に重要事項説明書、契約書を提示して利用者、家族に説明し理解を得た上で利用契約を結んでいる		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の巡回時、管理者はコミュニケーションを計りながら利用者の苦情、意見を聞き対応している		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	広報誌「グループホームさかい」を発行し各家族に送付し報告している、また、個々の状態等については、その都度家族に連絡し報告している		個々の生活状況を広報誌「グループホームさかい」でお知らせし安心して頂くために3ヶ月に一度各家族に配布したい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時直接不満などを聞くとときもあるが、意見箱の設置し意見、苦情等を書いて入れて頂き収集している		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望、提案などミーティングを利用して反映している		毎月意見、要望はミーティングを利用して改善を行っている
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤職員でユニットでローテーションを組み柔軟な対応ができるようにしている。 夜勤時の緊急時にも2名で組協力体制が執られる様になっている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームの特性を踏まえて異動は必要最小限にとどめている		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には積極的に参加している、又、内部研修も職員を講師になって施設内で再研修を実施している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することにより情報交換しながら交流を図っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	研修旅行や親睦会に参加させて職員間の親睦を図っている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者が毎日職場を巡回して職員の勤務状況や仕事上の相談にのり職員の支援に努めている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	コミュニケーションを図る 同じ目線で笑顔で話を聞く		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用申込時より、よくお話を伺い家族の不安解消等のために、よく傾聴して受け止めるようにしている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向も踏まえ、リハビリやマッサージのサービスも支援している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族が見学や体験をして頂き理解を深めるように努めている		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員は共有し、教えて頂きながら支えあうように努めている		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方を間に入れ家族の方とも相談し利用者の方を支える努力をしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の方の良い所を家族にお話し、良い関係が築けるよう支援している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊を利用し馴染みの人や場所への関係が保てるよう支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握しレクリエーションなど利用し孤立しないよう支援している		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されても病状を把握して状況によっては再入所できるよう努めている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者の意向を把握して本人の意向が反映できるよう努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活環境、週間、暮らし方について家族の協力を得て把握するよう努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現状を把握してその人らしい過ごし方をできるよう支援している		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画を作成する様に、職員全体で討議し作成している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをしながら、他に変化が生じた場合、その都度現状に即した計画を作成している		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況等は細かく個別の生活記録ファイルに整備され、日々のケアや介護計画に反映できるようになっている		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族とのコミュニケーションをとり、多機能性を活かした柔軟な支援をしている		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	かかりつけ医や歯科医について往診の援助を行うとともに、利用者の意向がある場合母体施設のリハビリ、マッサージなどのサービスを実施している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、それぞれのかかりつけ医に受診しており、対応の助言も受けている		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の老人保健施設の医師、看護師によって緊急時の相談や処置の対応が可能になった、又、看護師有資格者が1名配置されている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師資格を有する職員の指導で日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
46	に 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には家族と連絡を密にしながら病状を把握し早期退院に向けた話し合いをしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	かかりつけ医との関係を密にし、病状に即した対応が家族とともにできるよう努めている		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	病院との連携をとりながら利用者の病状について絶えず家族の相談にのるなど支援を行っている		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	互いに情報提供を行える限りダメージを受けない様全職員が努めている		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人の記録は責任者が責任を持って事務所で保管している。記帳も利用者の目の届かない所で行っている		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	入浴、外出など利用者の希望を聞く機会を日常的に持っている		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者ペースに合せた個別の対応で支援、ゆったりとした生活ができるよう対応している		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	利用者の希望により母体施設の理髪を利用される方、又、家族と一緒に外出して他の理髪にしている方もいる。入浴後洗顔後に化粧品をつけるため持っている方もいる		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	食事の準備、食後の片付け等を職員とともに共同で行っている		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	好みのものを利用者の各々に聞き健康的にらせるよう支援している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックに記録し利用者の排泄パターンを把握しており、さりげない声掛けで誘導している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望に合せた回数、湯加減等気持ちよく入浴できる様配慮している また、入浴の順番がないため、入浴を嫌う利用者には気分、気持ちなど大切にしたい入浴支援をしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の運動、作業などで活性化を図り安眠へと繋げている		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報、利用者とのコミュニケーションの中で調理、裁縫等日常生活の中に取り入れた活動を行っている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自らお金を持って買い物される利用者もいる 自ら管理できない利用者は職員がお金を預かり本人同行の上買い物をして支払いは職員がする		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外には職員と家族と協力して一緒に出られるよう支援している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出日を設けて家族とも調整して外出を支援している		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり手紙を書いて出したり出来る様支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は特別な場合以外は、気軽に訪問できるような環境にしてある		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の是非について認識しており拘束は行われていない		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の了解により内玄関の施錠により自由な外出は制限しているが、職員同行にて外へ出ることが多いユニットも廊下で通じており日中の往来は自由		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら昼夜を通じて利用者の所在や様子を把握している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所の包丁は隠し棚に管理している 薬等は安全を拝領し厳重に管理している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故については報告、記録、対応策等の記録があり職員全員が目を通すとともに自己防止に努めている。又、母体の事故防止委員会参加している		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は看護師資格を有する職員の日常的な指導で緊急時の応急手当を身に付けている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に基づき防火訓練を毎年2実施している		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりえるリスクについて家族には説明している		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見と対応を職員が速やかに出来るよう職員間で話し合っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護従事者は利用者ファイルに記載されている服薬の内容や副作用について理解し処方箋に従って服薬介助を行っている		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分補給と医師の処方による服薬にて対応している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後利用者への声かけ、必要に応じた歯磨き等への支援、口腔ケア、チェック表を記録し保管に努めている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量が記録されている献立チェックは併設施設の管理栄養士が行っている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体施設の感染予防委員会に参加しており、そこで話し合いが行われた内容は全職員に周知徹底を図る 感染対応マニュアルも作成している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の除菌等は決められた手順に基づきルフレどおりに実施している		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階に居るため出入り口がわかり易い、外来者のための出入り口の表示はしてある		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を展示したり、季節の花を飾ったりして季節感を取り入れている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話ができる様椅子を置いている、又、室内の配置替えを時々行っている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には自宅で使っていた馴染みのある品物を置くなどとして利用者が居心地良く暮らせるよう環境づくりに配慮している		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の空調は職員が利用者に尋ねたり動作から判断してリモコンで調整している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を利用して安全に異動できる様に工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所、食堂の自分の場所は利用者の名前を付けて判り易くしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩に出た時に休憩できる様に花やベンチを置いてある		
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		



95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)